

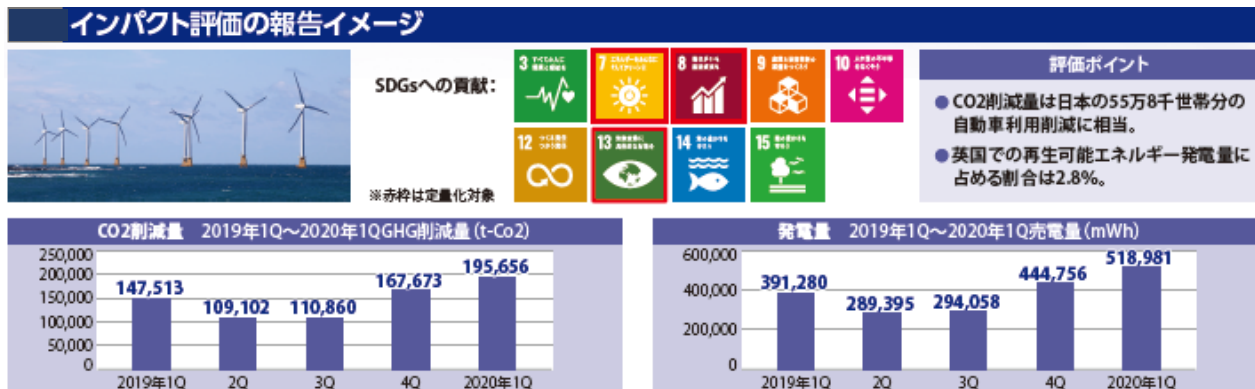
2021年4月23日

住友生命保険相互会社

SDGs への貢献についてインパクト評価を行う インフラデットファンドへの投資について

住友生命保険相互会社（代表執行役社長 高田 幸徳、以下「住友生命」）は、アセットマネジメント One オルタナティブインベストメンツ株式会社（以下「AMOAI」）が運用するインフラデットファンド（以下「本ファンド」）に約 100 億円の投資を決定しました。

本ファンドは、投資対象となる国・地域に必要な不可欠なインフラ事業（電力、ガス、水、交通等）への投融資をグローバルに行うインフラデットファンドです。インフラ投資を通じて持続可能な世界の実現に繋げるべく、ファンドの運用プロセスとして、プロジェクトの環境・社会に対するリスク評価を実施した上で選別的に投資を行うほか、SDGs に基づいたインパクト評価を実施し、SDGs への貢献度合いを定量的に可視化する等のモニタリングを行っています。例えば風力発電所であれば、CO2 削減量を自動車の利用削減に換算して表すなど、分かりやすいレポートングを行っています。



住友生命は、運用収益の向上に加え、SDGs 達成に貢献することが期待されることから、本ファンドへの投資を決定しました。

<本ファンドの概要>

運 用 会 社：アセットマネジメント One オルタナティブインベストメンツ株式会社

ファンド名称：Cosmic Blue PF Magnolia Feeder I FCR-RAIF

投 資 金 額：約 100 億円

住友生命は、「社会になくってはならない保険会社」の実現を目指し、事業活動を通じた SDGs の達成に向けた取組みを進めています。また、責任投資（ESG 投融資およびスチュワードシップ活動）をその主要な取組みの一つとして位置づけ、持続可能な社会の実現、および、中長期での投融資を行う機関投資家にとって運用収益の向上に資するとの認識の下、責任投資に取り組んでおり、本ファンドへの投資はその一環として行うものです。

今後も、責任投資を通じ、持続可能な社会の実現に貢献していくとともに、運用収益の向上に取り組んでいきます。

以上